

大分県新長期総合計画策定県民会議 第4回未来創造部会 委員発言要旨

日時：令和6年5月17日(金)10:00～12:15

場所：レンブラントホテル大分 2階 二豊の間

No.	項目	発言要旨
1	未来創造1 (1) 交通	・「高規格道路の整備延長」について、どの区間を見込んでいるかを地図上に図示した方が、県民にわかりやすいのではないかと。
2	未来創造1 (2) 交通	・「フェリー・クルーズ船旅客数」について、短期的には問題ないが、将来、四国新幹線が開通した際には、フェリー旅客数の減少が想定されるのではないかと。
3	未来創造1 (2) 交通	・「フェリー・クルーズ船旅客数」について、令和7年度の目標値に、大阪・関西万博の効果を反映すべきではないかと。
4	未来創造1 (2) 交通	・「フェリー・クルーズ船旅客数」について、フェリー旅客数の対象は、長距離フェリーだけか。ホーバークラフトなども含まれているのか。
5	未来創造1 (2) 交通	・「空港乗降客数」について、国内線と国際線のどちらをメインターゲットに目標値を設定しているのか。国内線はまだ需要が戻りきれていないので、国際線を狙うのであれば、かなりの便を誘致しないと目標達成が難しいと考える。
6	未来創造1 (2) 交通	・宇宙港の実現やコンセッションの導入検討により、空港が単なる交通アクセスの拠点ではなく、空港自体に行きたくなくなるような魅力的な施設にしていくことが重要。「空港乗降客数」に加えて、乗降客以外の利用者数もカウントすべきでは。 ・あわせて、10年後の目指す姿に、「空港自体に行きたくなくなる魅力を持つ拠点となっている」などの内容を追記してはどうか。
7	未来創造1 (3) 交通	・10年後の目指す姿にある「安全で快適な自転車利用環境や賑わいを創出する憩いの場など、利用者の多様なニーズに対応した道路空間が形成されている」の成果を測る指標を設定すべきではないかと。国が進めているウォークアブルシティが参考になる。
8	未来創造1 (3) 交通	・「乗合バス運転手の充足率」について、地域の公共交通の確保に向けて、人材不足が深刻化しているタクシーも考慮できないか。数値の把握が難しければ、現状と課題にタクシーに関する内容を追記すべき。
9	未来創造1 (3) 交通	・スマートインターチェンジの整備は、地域産業の発展や観光地へのアクセス改善等に寄与することから、主な取組に追記できないかと。
10	未来創造2 (1) 移住定住	・移住者数を細分化して、移住して就職や起業する人数、転職なき移住や二地域居住者の数値も指標に設定してはどうか。また、国もワーケーションを進める中、移住に加えて関係人口の数値も把握できると、施策をより評価できるのではないかと。

No.	項目	発言要旨
11	未来創造2 (1) 移住定住	・令和5年の移住者数1,714人と、移住促進策による移住者数の数値が異なるが、両者の関係性を教えてほしい。
12	未来創造2 (1) 移住定住	・一度は都会に出て働いてみたいというニーズが多い中、いかにUターンを促進するかが重要になってくることから、指標にUターン率を設定できないか。
13	未来創造2 (1) 移住定住	・本県は、外国人留学生が多いことが一つの特徴である。地域資源豊かな本県で住み続けたいと思う外国人も多いと思われる中、外国人の移住や外国人留学生の本県への定住を促進する施策が必要ではないか。
14	未来創造2 (1) 移住定住	・「県内高校・大学等新卒者の県内就職率」について、未来創造5(5)には、「県内大学等卒業者の県内就職率」を設定しているので、本施策では、県内高校に絞った指標にしてもよいのではないか。 ・送り出す側の学校の努力も必要である一方、条件や待遇面など、受け入れる企業の魅力を高める努力も不可欠である。
15	未来創造2 (1) 移住定住	・移住者に地域に定住してもらうためにも、その方々が、10年先にどれくらい大分県に住み続けているかを測る指標も必要ではないか。
16	未来創造2 (1) 移住定住	・移住を検討するにあたっては、住む場所がネックになり移住できないケースが多いと聞く。市営住宅が減少し、新規入居ができない状況もある。空き家の活用はもちろんのこと、地元企業と連携した住宅の確保も必要ではないか。
17	未来創造2 (1) 移住定住	・移住・定住の施策にビジネスの観点も加えていただきたい。
18	未来創造3 (1) カーボンニュートラル	・「温室効果ガス排出量」は、民生部門を含めた全体の数値か。企業活動を抑えるのではなく、省エネ活動を進めるなど、企業を含めた大分県全体で取組を進めることが重要。
19	未来創造3 (1) カーボンニュートラル	・環境先進県を目指すことは非常に素晴らしい。そのような中、「温室効果ガス排出量」の目標値は、国が掲げる目標値に比べて遅れをとっていないか。

No.	項目	発言要旨
20	未来創造3 (2) カーボンニュートラル	・「企業連携等によるGXプロジェクト創出件数」は、具体的にどのような内容を想定しているのか。コンビナート企業のみならず、産学官金連携で、広く県内企業の意識を醸成し、取組を促進することが重要ではないか。
21	未来創造3 (2) カーボンニュートラル	・GXの推進においては、地産地消型の「大分県版水素サプライチェーン」がキーワードになってくる。必ずしも先頭を走り続けるのではなく、チャンスがきた時には必ずつかめるよう、企業と行政で共通認識を持ち、インフラや人材の確保・育成などの環境整備を進めることが重要である。
22	未来創造3 (2) カーボンニュートラル	・Jークレジット制度を通じた、企業のCO2削減に関する連携も今後進んでいくと考えている。
23	未来創造3 (1) (2) カーボンニュートラル	・国においては、温室効果ガスの次期削減目標の策定が始まっているところ。本県の長期総合計画の5年後の見直しにおいては、これらの国の方針や国際情勢を捉えながら、見直しを実施していただきたい。
24	未来創造4 (2) DX	・「県民の暮らしを便利にするDXプロジェクト創出件数」は、具体的にどのような内容を想定しているのか。主な取組に記載している内容は、実現しているものが少ないのではないかと感じるので、プロジェクトが実現したかどうかを測る指標も必要であると考えます。
25	未来創造4 (2) DX	・現状と課題の「誰もがデジタル化の恩恵を受けるには、高齢者のスマートフォンの利用を促進するなど、デジタルデバイドの解消が不可欠です。」について、今後10年間では、スマートフォンだけでなく、様々なデジタルツールの活用が求められる可能性があるため、「スマートフォン等のデジタルツールの利用を促進」など、幅広く捉えた方がよいのではないか。
26	未来創造4 (2) DX	・デジタルツールの進展や開発スピードに鑑みると、「県の行政手続の電子申請率」の最終年度(令和15年度)の目標値65.3%については、もう少し高みを目指すべきではないか。
27	未来創造4 (3) 先端技術	・「先端技術挑戦産学連携プロジェクトに取り組む県内企業数」のカウント方法を教えていただきたい。
28	未来創造5 (1) (2) 教育	・5(1)の「学習したことを活用し、課題解決に主体的に取り組む児童生徒の割合」、5(2)の「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」は、児童生徒の主観的な回答結果の率だが、指標としてふさわしいのか。
29	未来創造5 (1) 教育	・「県立高校における専門学科の定員充足率」を掲げ、専門学科に行きたい生徒を増やすことは大切な視点。目指す姿や現状と課題などに専門学科の記載がないので、追記してはどうか。

No.	項目	発言要旨
30	未来創造5(3)教育	・「授業でICT機器をほぼ毎日使用している児童生徒の割合」には、高校の数値が含まれているのか。
31	未来創造5(3)教育	・1人1台端末が配備される中、通信環境が整備されているかが重要になってくる。全国的には一齐にオンライン教材を利用しようとしたら、重たくて動かない、接続できない状況もあるので、整備が進んでいないのであれば指標に設定すべきでは。全員が一齐に使用した時に不具合が生じないようにすることが大切。
32	未来創造5(3)教育	・「学校内外の機関等による専門的な相談・指導を受けた不登校児童生徒の割合」については、一度相談したらカウントされるのか。どのような相談・指導を何回受けたかなど、定義が不明確ではないか。 ・相談・指導を実施するスクールカウンセラーの人数などの方が明確ではないか。
33	計画全般	・「おんせん県おおいた」という言葉がツーリズムだけで使われているのがもったいないと感じる。温泉を保全・利活用するビジネスの展開も重要。元気分野の観光のみならず、安心分野の環境保全、未来創造分野の水素利活用など、全分野に温泉は効果を発揮すると考えている。温泉でビジネスを行うなら大分県みたいなイメージ戦略もできるのではないか。
34	計画全般	・各分野には、地球温暖化対策や人づくりなど、横串の施策がある。県民にわかりやすいように、関連する内容が一覧できるようなものがあるとよいと考える。